

東京医科大学医学部医学科 第6学年シラバス

令和4年4月1日 第1版

●臨床医学系科目

科目名	形式	前期・後期	単位	頁
臨床医学V				4
循環器				6
呼吸器				10
感染症				13
消化器				15
腎臓				18
血液・造血器				20
神経				23
内分泌・代謝				26
アレルギー・膠原病				29
産婦人科				31
小児科	講義	後	6	34
眼科				37
耳鼻咽喉科				39
整形外科				41
皮膚科				43
泌尿器科				45
形成外科				47
精神科				49
救急・中毒				52
麻酔				54
放射線				56
社会医学系				58

●臨床実習

科目名	形式	前期・後期	単位	頁
臨床医学IV	実習	前・後	28	1

科目名	臨床医学Ⅳ
年度	2022年度
学年	5年
開講学期	
科目ナンバリング	14903
必修/選択	必修
授業形態	講義
単位数	28.0単位
時間数	
科目責任者	三苫 博
科目担当者	
実務経験のある教員等による授業科目（計上状況）	該当する

1. 授業の目的・概要

授業の目的・概要	臨床医学Ⅳでは、学生が診療チームに参加し、その一員として診療業務を分担しながら医師の職業的な知識・思考法・技能・態度の基本的な部分を学ぶことを目的とした診療参加型臨床実習を行う。▼詳細は、「第5・6学年「臨床医学Ⅳ」実習ガイド」および「第5・6学年のための診療参加型臨床実習 Handbook」を参照のこと。診療現場で、知識、技能、態度を学ぶことが目標である。I期からVII期まで、診療チームの一員として医療面接、身体診察、診療録記載、プレゼンテーションを行う。▼多職種基礎技能実践コースでは基本的臨床手技や多職種連携、多職種協働やチーム医療を修得することを目的としたシミュレーション実習を行う。▼感染症実践コースでは感染症の診断と対応する実践的な能力を習得することを目的としたシミュレーション実習を行う。▼自己学修のコンテンツとして、「セレクト」動画を指定している。単なる国家試験の対策ではなく、実習で経験した内容の知識の裏付けとして補完的に活用すること、特に、基礎医学と臨床医学を統合して、「病態生理学」の視点から診療現場で考えることが出来ることを目標としている。
----------	--

2. 授業の到達目標およびディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応

授業の到達目標	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応
1. 医療面接におけるスキルを実践できる。	4-2・①・A
2. 患者の病歴聴取と記録の項目を挙げることができる。	4-2・②・A
3. 主要な疾患の診察において、基礎医学・臨床医学の知識に基づく基本的な判断ができる。	4-1・①②・A
4. 患者・家族への指示、指導内容を説明できる。	4-1・③・A
5. 基本的な全身の観察（バイタルサインを含む身体診察）ができる。	4-2・④・A
6. 基本的な臨床検査の適応や結果の解釈を説明できる。▼7. 基本的手技を指導の下に実施できる。	4-2・⑤・A, 4-2・⑥・A
8. 基本的治療法とその適応を説明できる。▼9. 指導の下、担当患者の医療記録を記載し、問題点を抽出できる。▼10. 保険・医療・福祉の各側面に配慮しつつ診療計画を作成できる。	4-2・⑦・A, 4-2・⑧・A, 4-2・⑨・A
9. 指導の下、担当患者の医療記録を記載し、問題点を抽出できる。▼10. 保険・医療・福祉の各側面に配慮しつつ診療計画を作成できる。	4-2・⑧・A, 4-2・⑨・A
11. 患者の呈する症状や身体所見、簡単な検査初見に基づいて病態を評価し、鑑別診断や検査計画を提示できる。▼12. 2次3次救急疾患の病態に応じた診療ができ、応急処置を述べることができる。▼13. 診療の場で、ステューデントドクターとして相応しい態度・行動をとることができる。▼14. 医療プロフェッショナリズムを理解し、行動で示すことができる。	4-2・⑩・A▼4-2・⑪・A, ▼1・全て・A ▼3・全て・A
教育到達目標レベルA, B, Cいずれかの内容について修得の機会はあるが、単位認定には関係ない領域/項目	4-1・④・D, 4-2・③・D, 4-3・全て・D, 5・全て・D, 6・全て・D, 7・全て・D, 8・全て・D, 9・全て・D, 10・全て・D

3. 授業の進め方と方法

内容	第5学年1月から第6学年7月までの7か月、選択必修7コース（期）の診療参加型の臨床実習を行う。▼詳細は、「第5～6学年「臨床医学Ⅳ」実習ガイド」および「第5・6学年のための診療参加型臨床実習 Handbook」を参照のこと。▼多職種基礎技能実践コースでは医学科・看護学科合同で全4回のテーマについて実際の手技場面を想定したシミュレーション実習を行う。▼感染症実践コースでは感染症に関連したon line実習に加え全6回のテーマについて少人数でのOSCEとシミュレーションを活用した実習を行う。
----	--

4. ICT活用

内容	感染症実践コースでは、事前学習としてon line実習を併用する。
----	-----------------------------------

5. 授業時間外の学習

予習	
予習時間	第5～6学年「臨床医学Ⅳ」実習ガイドを参照のこと。
予習内容	第5～6学年「臨床医学Ⅳ」実習ガイドを参照のこと。

復習	
復習時間	第5～6学年「臨床医学Ⅳ」実習ガイドを参照のこと。
復習内容	第5～6学年「臨床医学Ⅳ」実習ガイドを参照のこと。

6. 成績評価方法・基準

評価の方法と内訳 (%)	第5～6学年「臨床医学Ⅳ」実習ガイドを参照のこと。▼多職種基礎技能実践コース・感染症実践コースについてはon line実習の受講、出席状況、実習内での確認試験で評価する。各コース（期）とも出席率4/5以上の者が最終評価の対象となる。評価は、診療現場のパフォーマンスに対して、知識、技能、態度の3要素を統合して判断する。4週間のコースごとに。卒業時教育到達目標と関連した知識、技能、態度を含む全12項目及び概略評価について、臨床実習評価用ルーブリックに基づいて6段階の評定尺度により評価を実施している。この評価項目には①プロフェッショナリズム・コミュニケーション6項目（礼儀礼節、身だしなみ、時間のルール、患者への態度、積極的学修、周囲とのコミュニケーション）、②診察技能、臨床推論6項目（医療安全、医療面接、身体診察、診療録記載、問題点の抽出、プレゼンテーション）が含まれる。指導医は1週目と4週目に形成的評価を行いeポートフォリオの掲載し、学生はその実習中の進歩を確認できる。また、可能な限り看護師、患者による360度評価も行われる。診療科長はこれらの評価を確認したうえで、総括評価を実施している。①と②は独立に評価され、この両方が基準点を越えることが合格に必須である。指導医はこの評価をe自主自学に掲載しフィードバックするので、何が出来て、何が出来ないか、到達目標から自己評価することを期待している。また、I～VII期を通してその成長も把握すること。
最終評価点	診療参加型臨床実習7コース（期）と多職種基礎技能実践コース・感染症実践コースを合わせた1コース（期）の計8コース（期）について評価する。
合格点	各コース（期）60点を合格とする。
筆記試験の形式	
再試験・対象者	不合格となったコース（期）については再実習を行う。
再試験・実施時期	
再試験・範囲	
再試験・難易度	
再試験・方法	
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法	課題等に対する質問はオフィスアワーやe自主自学で回答する。

7. 履修上の注意等

内容	第5～6学年「臨床医学Ⅳ」実習ガイドを参照のこと。
----	---------------------------

8. オフィシアワー

担当者、日時、場所、IP電話、E-mailなど	
-------------------------	--

9. 指定する教科書、参考書

教科書	
書籍名、著者名、出版社名、費用など	

参考書	
書籍名、著者名、出版社名、費用など	

10. 授業内容

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

回数	月日	曜日	時限	方式	授業内容	到達目標	キーワード	担当者
1								
2								
3								
4								
5								
6								
7								
8								
9								
10								
11								
12								
13								
14								
15								

科目名	臨床医学Ⅴ
年度	2022年度
学年	6年
開講学期	前期・後期
科目ナンバリング	
必修/選択	必修
授業形態	講義
単位数	6.0単位
時間数	
科目責任者	三苫 博
科目担当者	
実務経験のある教員等による授業科目（計上状況）	該当する（詳細はこのシラバスに添付のファイルを参照）

1. 授業の目的・概要

授業の目的・概要	<p>臨床実習で学んだ知識、考え方を再整理し、臨床現場で使える統合された知識、臨床推論能力を修得することが目的である。従って、基本概念の修得に重きを置いた第3, 4学年の臨床医学の授業から一段階高いレベルで設計されている。臨床医学Ⅴは、循環器・呼吸器・感染症、消化器・腎臓・血液造血器など6つのセクションからなる科目である。スタイルは、「オンデマンド教材」の自己学修と「対面での双方向型演習」のハイブリッド型で実施する。この能動的な学修スタイルにより、机上の知識ではなく、臨床現場で使える統合された知識、林陽推論応力の獲得を期待している。自己学修のコンテンツとして、「セレクト」動画を指定している。単なる国家試験の対策ではなく、実習で経験した内容の知識の裏付けとして補完的に活用すること、特に、基礎医学と臨床医学を統合して、「病態生理学」の視点から診療現場で考えることが出来る能力を修得することを目標としている。</p>
----------	--

2. 授業の到達目標およびディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応

授業の到達目標	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応
1) 自己の学習能力を分析し、具体的な学習計画を立てることができる。	5・⑤・A
2) 医師国家試験出題基準の重要項目について説明できる。	4・全て・A
教育到達目標レベルA, B, Cいずれかの内容について修得の機会はあるが、単位認定には関係ない領域/項目	1-1・①②・D, 1-2・①②・D, 3・全て・D, 5・①②③④・D, 6・全て・D, 7・全て・D

3. 授業の進め方と方法

内容	<p>各臓器別講義では医師国家試験で出題される各論を中心に学習することとなる。各臓器の最後に設けるSummaryは国家試験の過去問について病態生理を解説し理解させる内容となる。また、社会医学系講義では保健医療論、予防と健康管理・増進といった総論系を学習することとなる。</p> <p>※この科目は実務経験のある教員による授業科目である。</p>
----	--

4. ICT活用

内容	
----	--

5. 授業時間外の学習

予習	
予習時間	30分
予習内容	<p>受講前には、各臓器のネット講座を視聴し、ノートを作成しておくことが必須である。また、特に講義内容に掲げてあるキーワードの疾患について知識を整理し、講義に臨んでもらいたい。</p>

復習	
復習時間	30分
復習内容	本講義にて新たなる知識を得るものではない。したがって、予習で理解できなかった内容を講義中に担当教員に確認し、再度、復習により知識を確実なものにしてもらいたい。

6. 成績評価方法・基準

評価の方法と内訳 (%)	●授業評価 100%、講義に対する知識はもとより、講義で取り上げない内容についても出題し、自己学習の成果を評価することを目的とする。また、出席率が2/3以上の者が、最終評価の対象となる。
最終評価点	各Section終了時のSection試験（全6回）と臨床演習試験（全3回）を実施する。 評価は各セクション試験成績（平均点）を40%、臨床演習試験成績（平均点）を60%として総合的に判定する。
合格点	68.0%を合格基準点とする。
筆記試験の形式	多肢選択方式で行う。
再試験・対象者	臨床医学Ⅴ最終評価が合格基準点に達しない者。
再試験・実施時期	臨床医学Ⅴ全試験終了後に実施する。
再試験・範囲	本試験に準ずる。
再試験・難易度	原則として本試験と同等（以上）とする。
再試験・方法	本試験に準ずる。
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法	試験終了後に正解表・解説書を配布する。 試験に対する質問については出題者へ確認し回答する。

7. 履修上の注意等

内容	1) 臨床を中心に臓器系統別に分け、約2週間を一区切りとし、最終週では主に社会医学系を集中して行い6つの区分（セクション）により学習する。 2) 本講義では、医師国家試験に必要とされる内容すべてを網羅することはできないので、講義で取り扱われなかった部分は、自己学習により確認することが必要である。
----	---

8. オフィスアワー

担当者、日時、場所、IP電話、E-mailなど	
各講義担当者と事前連絡にて調整すること。	

9. 指定する教科書、参考書

教科書	
書籍名、著者名、出版社名、費用など	
多岐にわたる領域のため、必要な教科書・参考書があれば適宜講義担当者から挙げてもらう。	
参考書	
書籍名、著者名、出版社名、費用など	

10. 授業内容

回数	月日	曜日	時限	方式	授業内容	到達目標	キーワード	担当者
1								
2								
3								
4								
5								
6								
7								

科目名	臨床医学Ⅴ（循環器）Section1
年度	2022年度
学年	6年
開講学期	前期・後期
科目ナンバリング	
必修/選択	必修
授業形態	講義
単位数	0.0単位
時間数	
科目責任者	近森 大志郎
科目担当者	近森 大志郎(循環器内科学)、富山 博史(循環器内科学)、福田 尚司(心臓血管外科学)、肥田 敏(循環器内科学)、里見 和浩(循環器内科学)、小菅 寿徳(循環器内科学)、武井 康悦(循環器内科学)、岩橋 徹(心臓血管外科学)、石井 宏樹(小児科・思春期科学)、三苫 博(医学教育学)
実務経験のある教員等による授業科目（計上状況）	該当する（詳細は概要のシラバスを参照）

1. 授業の目的・概要

授業の目的・概要	
----------	--

2. 授業の到達目標およびディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応

授業の到達目標	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応

3. 授業の進め方と方法

内容	
----	--

4. ICT活用

内容	
----	--

5. 授業時間外の学習

予習	
予習時間	
予習内容	

復習	
復習時間	
復習内容	

6. 成績評価方法・基準

評価の方法と内訳（％）	
最終評価点	

合格点	
筆記試験の形式	
再試験・対象者	
再試験・実施時期	
再試験・範囲	
再試験・難易度	
再試験・方法	
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法	

7. 履修上の注意等

内容	
----	--

8. オフィスアワー

担当者、日時、場所、IP電話、E-mailなど

9. 指定する教科書、参考書

教科書

書籍名、著者名、出版社名、費用など

参考書

書籍名、著者名、出版社名、費用など

10. 授業内容

回数	月日	曜日	時限	方式	授業内容	到達目標	キーワード	担当者
1	2022/8/16	火	1	講義	心不全	心不全の原因疾患と病態生理を説明できる。 左心不全と右心不全の診断を説明し、治療を概説できる。 急性心不全の定義と重症度分類を説明できる。 急性心不全の病態生理を説明できる。 急性心不全の診断を説明し、治療を概説できる。 慢性心不全の診断を説明し、治療を概説できる。 心原性ショックの治療を概説できる。	1.左心不全 2.右心不全 3.急性心不全 4.慢性心不全 5.心原性ショック	小菅 寿徳(循環器内科学)
2	2022/8/16	火	2	講義	不整脈	主な頻脈性不整脈の心電図上の特徴と治療を説明できる。 主な徐脈性不整脈の心電図上の特徴と治療を説明できる。 致死的不整脈の心電図上の特徴と治療を説明できる。 薬物療法、非薬物療法について概説できる。	1.上室(性)頻脈性不整脈 2.心室(性)頻脈性不整脈 3.徐脈性不整脈 4.薬物療法 5.非薬物療法	里見 和浩(循環器内科学)
3	2022/8/16	火	3	講義	心筋・心膜疾患・心臓腫瘍	心筋炎の病因と症候を説明できる。 肥大型心筋症の定義・概念と病態生理を説明できる。 拡張型心筋症の定義・概念と病態生理を説明できる。 不整脈源性右室心筋症の概念を説明できる。 二次性心筋疾患の原因と病態	1.心筋炎 2.特発性心筋症 3.心膜疾患 4.心タンポナーデ 5.心臓腫瘍	近森 大志郎 (循環器内科学)

						生理を説明できる。 急性心膜炎の症候を説明できる。 心タンポナーデの原因と診断を説明し、治療を概説できる。 心臓腫瘍の症候と診断を概説できる		
4	2022/8/17	水	1	講義	心電図・画像診断演習	12誘導心電図の検査方法や所見を述べるができる。 Holter心電図の適応を概説できる。 胸部単純エックス線写真の読影や異常所見が評価できる。 胸部CTの異常所見を評価できる。 心筋シンチグラフィ、冠動脈CT、心臓MRIの正常所見、異常所見を評価できる。	1.12誘導心電図 2.胸部単純エックス線写真 3.胸部CT 4.循環器画像診断	肥田 敏（循環器内科学）
5	2022/8/17	水	2	講義	弁膜症	僧帽弁疾患の原因・病態生理・診断・治療を概説できる。 大動脈弁疾患の原因・病態生理・診断・治療を概説できる。 感染性心内膜炎の原因、症候と診断を説明し、治療を概説できる。	1.僧帽弁疾患 2.大動脈弁疾患 3.感染性心内膜炎	武井 康悦（循環器内科学）
6	2022/8/17	水	3	講義	手術と術後管理・人工臓器	心臓血管外科手術の基本を概説できる。 心臓血管外科手術で用いる体外循環と補助手段を概説できる。 虚血性心疾患に対する手術適応と術式を概説できる。 弁膜症の手術適応を説明し、手術法を概説できる。	1.手術の選択 2.体外循環と補助手段 3.人工弁・血管 4.補助循環	福田 尚司（心臓血管外科学）
7	2022/8/18	木	1	講義	脈管疾患	大動脈瘤を概説できる。 大動脈解離を概説できる。 大動脈炎症候群を概説できる。 深部静脈血栓症の原因と症候、治療を説明できる。 上大静脈症候群の原因と症候を説明できる。 下肢静脈瘤を概説できる。 リンパ浮腫の原因を列挙できる。	1.大動脈疾患 2.末梢動脈疾患 3.静脈疾患 4.リンパ管疾患	岩橋 徹（心臓血管外科学）
8	2022/8/18	木	2	講義	先天性心疾患	左右短絡疾患、右左短絡疾患、その他の複雑心奇形の病態生理・症候と診断を説明し、治療を概説できる。	1.左右短絡疾患 2.右左短絡疾患 3.その他の複雑心奇形	石井 宏樹（小児科・思春期科学）
9	2022/8/18	木	3	講義	虚血性心疾患	狭心症の病態生理・症候と診断を説明できる。 不安定狭心症の病態生理・症候と診断、治療を説明できる。 急性心筋梗塞の病態生理・症候・診断と合併症、治療を説明できる。 不安定狭心症の病態生理・症候と診断を説明できる。 陳旧性心筋梗塞の病態生理・症候・診断と治療を説明できる。 冠動脈造影、カテーテル治療の適応、方法、合併症を概説できる。	1.狭心症 2.急性冠症候群 3.陳旧性心筋梗塞 4.冠動脈造影 5.カテーテル治療	富山 博史（循環器内科学）
10	2022/8/19	金	1	講義	Summary ・循環器			三苫 博（医学教育学）
11	2022/8/19	金	2	講義	Summary			三苫 博（医

					· 循環器			学教育学)
12								
13								
14								
15								

科目名	臨床医学Ⅴ（呼吸器）Section1
年度	2022年度
学年	6年
開講学期	前期・後期
科目ナンバリング	
必修/選択	必修
授業形態	講義
単位数	0.0単位
時間数	
科目責任者	阿部 信二
科目担当者	阿部 信二(呼吸器内科学)、池田 徳彦(呼吸器・甲状腺外科学)、石川 孝(乳腺科学)、渡邊 秀裕(感染制御部)、河野 雄太(呼吸器内科学)、富樫 佑基(呼吸器内科学)、三苫 博(医学教育学)
実務経験のある教員等による授業科目（計上状況）	該当する（詳細は概要のシラバスを参照）

1. 授業の目的・概要

授業の目的・概要	
----------	--

2. 授業の到達目標およびディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応

授業の到達目標	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応

3. 授業の進め方と方法

内容	
----	--

4. ICT活用

内容	
----	--

5. 授業時間外の学習

予習	
予習時間	
予習内容	

復習	
復習時間	
復習内容	

6. 成績評価方法・基準

評価の方法と内訳（％）	
最終評価点	

合格点	
筆記試験の形式	
再試験・対象者	
再試験・実施時期	
再試験・範囲	
再試験・難易度	
再試験・方法	
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法	

7. 履修上の注意等

内容	
----	--

8. オフィスアワー

担当者、日時、場所、IP電話、E-mailなど	

9. 指定する教科書、参考書

教科書

書籍名、著者名、出版社名、費用など	

参考書

書籍名、著者名、出版社名、費用など	

10. 授業内容

回数	月日	曜日	時限	方式	授業内容	到達目標	キーワード	担当者
1	2022/8/22	月	1	講義	感染性呼吸器疾患		1.呼吸器ウイルス感染症 2.細菌性肺炎、非定型肺炎 3.肺真菌症 4.抗酸菌症 5.日和見感染症	渡邊 秀裕 (感染制御部)
2	2022/8/22	月	2	講義	肺循環異常と呼吸調節異常		1.肺水腫 2.肺血栓塞栓症 3.肺高血圧症 4.睡眠時無呼吸症候群 5.過換気症候群	富樫 佑基 (呼吸器内科学)
3	2022/8/22	月	3	講義	気管・気管支・肺の形態・機能異常		1.慢性閉塞性肺疾患 2.気管支拡張症 3.びまん性汎細気管支炎 4.無気肺	河野 雄太 (呼吸器内科学)
4	2022/8/23	火	1	講義	免疫学的機序が考えられる疾患		1.気管支喘息 2.アレルギー性気管支肺アスペルギルス症 3.好酸球性疾患 4.血管炎関連疾患 5.サルコイドーシス	河野 雄太 (呼吸器内科学)
5	2022/8/23	火	2	講義	実質性・間質性肺障害・胸膜疾患		1.特発性間質性肺炎	阿部 信二 (呼吸器内科)

							2.肺リンパ脈管筋腫症 3.じん肺症 4.肺胞蛋白症	学)
6	2022/8/24	水	1	講義	肺・胸膜・縦隔の形態・機能異常と腫瘍		1.肺癌 2.転移性肺腫瘍 3.縦隔腫瘍 4.胸膜腫瘍 5.気胸、緊張性気胸	池田 徳彦 (呼吸器・甲状腺外科学)
7	2022/8/24	水	2	講義	乳腺・乳房疾患		1.乳腺線維腺腫、葉状腫瘍 2.乳房悪性腫瘍(乳癌)	石川 孝(乳腺科学)
8	2022/8/25	木	1	講義	Summary ・呼吸器			三苫 博(医学教育学)
9	2022/8/25	木	2	講義	Summary ・呼吸器			三苫 博(医学教育学)
10								
11								
12								
13								
14								
15								

科目名	臨床医学V（感染症）Section1
年度	2022年度
学年	6年
開講学期	前期・後期
科目ナンバリング	
必修/選択	必修
授業形態	講義
単位数	0.0単位
時間数	
科目責任者	渡邊 秀裕
科目担当者	渡邊 秀裕(感染制御部)、中村 茂樹(微生物学)、木内 英(臨床検査医学)、細川 直登(亀田総合病院)
実務経験のある教員等による授業科目（計上状況）	該当する（詳細は概要のシラバスを参照）

1. 授業の目的・概要

授業の目的・概要	
----------	--

2. 授業の到達目標およびディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応

授業の到達目標	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応

3. 授業の進め方と方法

内容	
----	--

4. ICT活用

内容	
----	--

5. 授業時間外の学習

予習	
予習時間	
予習内容	

復習	
復習時間	
復習内容	

6. 成績評価方法・基準

評価の方法と内訳（％）	
最終評価点	
合格点	

筆記試験の形式	
再試験・対象者	
再試験・実施時期	
再試験・範囲	
再試験・難易度	
再試験・方法	
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法	

7. 履修上の注意等

内容	
----	--

8. オフィスアワー

担当者、日時、場所、IP電話、E-mailなど	
-------------------------	--

9. 指定する教科書、参考書

教科書

書籍名、著者名、出版社名、費用など	
-------------------	--

参考書

書籍名、著者名、出版社名、費用など	
-------------------	--

10. 授業内容

回数	月日	曜日	時限	方式	授業内容	到達目標	キーワード	担当者
1	2022/8/26	金	1	講義	感染症総論		1.感染の病態 2.感染経路 3.検査 4.敗血症 5.輸入感染症	中村 茂樹 (微生物学)
2	2022/8/26	金	2	講義	感染症の治療		1.抗菌薬 2.抗真菌薬 3.抗ウイルス薬 4.副作用と禁忌	細川 直登(亀田総合病院)
3	2022/8/26	金	3	講義	院内感染対策		1.院内伝播の予防と対策 2.サーベイランス 3.感染経路別予防策 4.耐性菌対策	渡邊 秀裕 (感染制御部)
4	2022/8/26	金	4	講義	免疫不全と感染 (AIDS)		1.日和見感染 2.細胞性免疫 3.抗HIV療法	木内 英 (臨床検査医学)
5								
6								
7								
8								
9								
10								
11								

科目名	臨床医学Ⅴ（消化器）Section2
年度	2022年度
学年	6年
開講学期	前期・後期
科目ナンバリング	
必修/選択	必修
授業形態	講義
単位数	0.0単位
時間数	
科目責任者	永川 裕一
科目担当者	糸井 隆夫(消化器内科学)、永川 裕一(消化器・小児外科学)、祖父尼 淳(消化器内科学)、杉本 勝俊(消化器内科学)、福澤 誠克(消化器内科学)、榎本 正統(消化器・小児外科学)、内藤 咲貴子(消化器内科学)、河野 真(消化器内科学)、吉益 悠(消化器内科学)、栗原 寛(消化器・小児外科学)、三苫 博(医学教育学)
実務経験のある教員等による授業科目（計上状況）	該当する（詳細は概要のシラバスを参照）

1. 授業の目的・概要

授業の目的・概要	
----------	--

2. 授業の到達目標およびディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応

授業の到達目標	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応

3. 授業の進め方と方法

内容	
----	--

4. ICT活用

内容	
----	--

5. 授業時間外の学習

予習	
予習時間	
予習内容	

復習	
復習時間	
復習内容	

6. 成績評価方法・基準

評価の方法と内訳（％）	
-------------	--

最終評価点	
合格点	
筆記試験の形式	
再試験・対象者	
再試験・実施時期	
再試験・範囲	
再試験・難易度	
再試験・方法	
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法	

7. 履修上の注意等

内容	
----	--

8. オフィスアワー

担当者、日時、場所、IP電話、E-mailなど	
-------------------------	--

9. 指定する教科書、参考書

教科書

書籍名、著者名、出版社名、費用など	
-------------------	--

参考書

書籍名、著者名、出版社名、費用など	
-------------------	--

10. 授業内容

回数	月日	曜日	時限	方式	授業内容	到達目標	キーワード	担当者
1	2022/8/30	火	1	講義	上部消化管の良性疾患		1.逆流性食道炎 2.食道アカラシア 3.食道静脈瘤 4.急性胃粘膜病変 5.胃・十二指腸潰瘍	内藤 咲貴子 (消化器内科学)
2	2022/8/30	火	2	講義	上部消化管の腫瘍		1.食道癌 2.胃ポリープ 3.胃癌 4.GIST	河野 真 (消化器内科学)
3	2022/8/30	火	3	講義	下部消化管の炎症・感染症		1.過敏性腸症候群 2.感染性腸炎 3.Crohn病 4.潰瘍性大腸炎 5.虚血性大腸炎	福澤 誠克 (消化器内科学)
4	2022/8/30	火	4	講義	下部消化管の腫瘍		1.大腸ポリープ 2.消化管ポリポージス 3.大腸癌	福澤 誠克 (消化器内科学)
5	2022/8/31	水	1	講義	消化管の外科的治療	消化管癌の治療、主に外科治療と合併症について概説できる。 肛門疾患の治療、特に外科治療と合併症について概説できる。	1.食道癌 2.胃癌 3.大腸癌・炎症性腸疾患 4.肛門疾患	栗原 寛 (消化器・小児外科学)

6	2022/8/31	水	2	講義	肝の炎症・門脈亢進症		1.急性肝炎 2.慢性肝炎 3.肝硬変 4.薬剤性肝障害 5.門脈亢進症	吉益 悠 (消化器内科学)
7	2022/8/31	水	3	講義	肝腫瘍と感染症		1.肝血管腫 2.肝細胞癌 3.転移性肝癌 4.肝膿瘍	杉本 勝俊 (消化器内科学)
8	2022/8/31	水	4	講義	胆道疾患		1.胆嚢・胆管炎 2.胆石症 3.胆嚢ポリープ 4.胆嚢癌・胆管癌	糸井 隆夫 (消化器内科学)
9	2022/9/1	木	1	講義	膵疾患		1.急性膵炎 2.慢性膵炎 3.自己免疫性膵炎 4.膵嚢胞性腫瘍 5.膵癌	祖父尼 淳 (消化器内科学)
10	2022/9/1	木	2	講義	肝・胆・膵の外科的治療	胆石症、膵嚢胞性疾患、膵内 分泌腫瘍の治療、特に外科治 療と合併症について概説でき る。 肝臓癌、胆道癌、膵臓癌の治 療、主に外科治療と合併症に ついて概説できる。	1.胆嚢炎・胆石 症 2.肝癌 3.胆嚢癌・胆管 癌 4.膵癌	永川 裕一 (消化器・小 児外科学)
11	2022/9/1	木	3	講義	急性腹症	急性腹症の病態、鑑別診断に ついて概説できる。 急性腹症の治療、特に外科治 療と合併症について概説でき る。	1.虫垂炎 2.ヘルニア 3.イレウス 4.腹膜炎 5.消化管穿孔	榎本 正統 (消化器・小 児外科学)
12	2022/9/2	金	1	講義	Summary ・消化器			三苫 博 (医学教育学)
13	2022/9/2	金	2	講義	Summary ・消化器			三苫 博 (医学教育学)
14								
15								

科目名	臨床医学Ⅴ（腎臓）Section2
年度	2022年度
学年	6年
開講学期	前期・後期
科目ナンバリング	
必修/選択	必修
授業形態	講義
単位数	0.0単位
時間数	
科目責任者	菅野 義彦
科目担当者	菅野 義彦(腎臓内科学)、知名 理絵子(腎臓内科学)、長岡 由女(腎臓内科学)、三苫 博(医学教育学)
実務経験のある教員等による授業科目（計上状況）	該当する（詳細は概要のシラバスを参照）

1. 授業の目的・概要

授業の目的・概要	
----------	--

2. 授業の到達目標およびディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応

授業の到達目標	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応

3. 授業の進め方と方法

内容	
----	--

4. ICT活用

内容	
----	--

5. 授業時間外の学習

予習	
予習時間	
予習内容	

復習	
復習時間	
復習内容	

6. 成績評価方法・基準

評価の方法と内訳（%）	
最終評価点	
合格点	

筆記試験の形式	
再試験・対象者	
再試験・実施時期	
再試験・範囲	
再試験・難易度	
再試験・方法	
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法	

7. 履修上の注意等

内容	
----	--

8. オフィスアワー

担当者、日時、場所、IP電話、E-mailなど	
-------------------------	--

9. 指定する教科書、参考書

教科書

書籍名、著者名、出版社名、費用など	
-------------------	--

参考書

書籍名、著者名、出版社名、費用など	
-------------------	--

10. 授業内容

回数	月日	曜日	時限	方式	授業内容	到達目標	キーワード	担当者
1	2022/9/5	月	1	講義	腎疾患の症候と検査		1.蛋白尿・血尿など 2.腎機能検査 3.水・電解質の異常	知名 理絵子 (腎臓内科学)
2	2022/9/5	月	2	講義	糸球体病変		1.糸球体腎炎 2.ネフローゼ症候群 3.全身疾患に伴う腎疾患	長岡 由女 (腎臓内科学)
3	2022/9/5	月	3	講義	血管・尿細管・間質性病変		1.腎血管疾患 2.尿細管間質疾患 3.尿細管機能異常(酸塩基平衡の異常)	長岡 由女 (腎臓内科学)
4	2022/9/5	月	4	講義	腎機能の障害による異常		1.急性腎不全 2.慢性腎臓病・慢性腎不全 3.血液浄化	菅野 義彦 (腎臓内科学)
5	2022/9/6	火	1	講義	Summary ・腎臓			三苫 博(医学教育学)
6	2022/9/6	火	2	講義	Summary ・腎臓			三苫 博(医学教育学)
7								
8								
9								
10								

科目名	臨床医学V（血液・造血器）Section2
年度	2022年度
学年	6年
開講学期	前期・後期
科目ナンバリング	
必修/選択	必修
授業形態	講義
単位数	0.0単位
時間数	
科目責任者	後藤 明彦
科目担当者	木内 英(臨床検査医学)、伊藤 良和(臨床研究支援センター)、天野 景裕(臨床検査医学)、後藤 守孝(血液内科学)、岡部 聖一(血液内科学)、吉澤 成一郎(血液内科学)、三苫 博(医学教育学)
実務経験のある教員等による授業科目（計上状況）	該当する（詳細は概要のシラバスを参照）

1. 授業の目的・概要

授業の目的・概要	
----------	--

2. 授業の到達目標およびディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応

授業の到達目標	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応

3. 授業の進め方と方法

内容	
----	--

4. ICT活用

内容	
----	--

5. 授業時間外の学習

予習	
予習時間	
予習内容	

復習	
復習時間	
復習内容	

6. 成績評価方法・基準

評価の方法と内訳 (%)	
最終評価点	

合格点	
筆記試験の形式	
再試験・対象者	
再試験・実施時期	
再試験・範囲	
再試験・難易度	
再試験・方法	
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法	

7. 履修上の注意等

内容	
----	--

8. オフィスアワー

担当者、日時、場所、IP電話、E-mailなど	

9. 指定する教科書、参考書

教科書

書籍名、著者名、出版社名、費用など	

参考書

書籍名、著者名、出版社名、費用など	

10. 授業内容

回数	月日	曜日	時限	方式	授業内容	到達目標	キーワード	担当者
1	2022/9/7	水	1	講義	輸血とその副作用		1.輸血製剤 2.輸血の適応 3.輸血検査 4.輸血の副作用	天野 景裕 (臨床検査医学)
2	2022/9/7	水	2	講義	凝固因子の異常・血栓症		1.血友病 2.von Willebrand病等 3.DIC 4.先天性・後天性血栓傾向 5.血栓症	木内 英 (臨床検査医学)
3	2022/9/7	水	3	講義	赤血球系疾患		1.鉄代謝障害 2.巨赤芽球性貧血 3.溶血性貧血 4.骨髄不全症候群	伊藤 良和 (臨床研究支援センター)
4	2022/9/8	木	1	講義	白血球系疾患とその他の骨髄性疾患		1.急性白血病 2.骨髄異形成症候群 3.慢性骨髄性白血病 4.原発性骨髄線維症 5.本態性血小板血症 6.真性赤血球増加症	岡部 聖一 (血液内科学)
5	2022/9/8	木	2	講義	リンパ系疾患		1.Hodgkinリンパ腫	吉澤 成一郎 (血液内科)

							2.成熟B細胞腫瘍 3.成熟T細胞・NK細胞腫瘍 4.血球貧食症候群	学)
6	2022/9/8	木	3	講義	血小板の異常 造血幹細胞移植		1.特発性血小板減少性紫斑病 2.血栓性血小板減少性紫斑病 3.溶血性尿毒症症候群 4.血小板機能異常 5.造血幹細胞移植	後藤 守孝 (血液内科学)
7	2022/9/9	金	1	講義	Summary ・血液・造血器			三苫 博 (医学教育学)
8	2022/9/9	金	2	講義	Summary ・血液・造血器			三苫 博 (医学教育学)
9								
10								
11								
12								
13								
14								
15								

科目名	臨床医学Ⅴ（神経）Section3
年度	2022年度
学年	6年
開講学期	前期・後期
科目ナンバリング	
必修/選択	必修
授業形態	講義
単位数	0.0単位
時間数	
科目責任者	赫 寛雄
科目担当者	赫 寛雄(神経学)、河野 道宏(脳神経外科学)、清水 聡一郎(高齢総合医学)、加藤 陽久(神経学)、日出山 拓人(神経学)、三苫 博(医学教育学)
実務経験のある教員等による授業科目（計上状況）	該当する（詳細は概要のシラバスを参照）

1. 授業の目的・概要

授業の目的・概要	
----------	--

2. 授業の到達目標およびディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応

授業の到達目標	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応

3. 授業の進め方と方法

内容	
----	--

4. ICT活用

内容	
----	--

5. 授業時間外の学習

予習	
予習時間	
予習内容	

復習	
復習時間	
復習内容	

6. 成績評価方法・基準

評価の方法と内訳（％）	
最終評価点	

合格点	
筆記試験の形式	
再試験・対象者	
再試験・実施時期	
再試験・範囲	
再試験・難易度	
再試験・方法	
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法	

7. 履修上の注意等

内容	
----	--

8. オフィスアワー

担当者、日時、場所、IP電話、E-mailなど	

9. 指定する教科書、参考書

教科書

書籍名、著者名、出版社名、費用など	

参考書

書籍名、著者名、出版社名、費用など	

10. 授業内容

回数	月日	曜日	時限	方式	授業内容	到達目標	キーワード	担当者
1	2022/9/13	火	1	講義	脱髄疾患および神経免疫疾患		1.多発性硬化症・視神経脊髄炎 2.急性散在性脳脊髄炎 3.Guillain-Barré症候群 4.重症筋無力症 5/内科疾患に関連する神経疾患	日出山 拓人 (神経学)
2	2022/9/13	火	2	講義	認知症性疾患		1.軽度認知障害 2.Alzheimer病 3.脳血管性認知症 4.Lewy小体型認知症 5.前頭側頭型認知症	清水 聡一郎 (高齢総合医学)
3	2022/9/13	火	3	講義	機能的疾患 神経感染症		1.頭痛 2.てんかん 3.神経感染症	赫 寛雄(神経学)
4	2022/9/13	火	4	講義	神経系の変性疾患		1.パーキンソン病 2.多系統萎縮症 3.Huntington舞蹈病 4.脊髄小脳変性症 5.筋萎縮性側索硬化症	赫 寛雄(神経学)

5	2022/9/14	水	1	講義	脳腫瘍 110分講義		1.くも膜下出血 2.脳実質内腫瘍 3.脳実質外腫瘍 4.転移性脳腫瘍	河野 道宏(脳 神経外科学)
6	2022/9/14	水	2	講義	脳血管障害 70分講義		1.脳出血 2.脳梗塞 3.その他の脳血 管障害	加藤 陽久(神 経学)
7	2022/9/14	水	3	講義	末梢神経疾患、筋疾患		1.ニューロパチ ー 2.ミオパチー・ 筋ジストロフィ ー	加藤 陽久(神 経学)
8	2022/9/15	木	1	講義	Summar ・神経			三苫 博(医学 教育学)
9	2022/9/15	木	2	講義	Summar ・神経			三苫 博(医学 教育学)
10								
11								
12								
13								
14								
15								

科目名	臨床医学Ⅴ（内分泌・代謝）Section3
年度	2022年度
学年	6年
開講学期	前期・後期
科目ナンバリング	
必修/選択	必修
授業形態	講義
単位数	0.0単位
時間数	
科目責任者	三輪 隆
科目担当者	三輪 隆(糖尿病・代謝・内分泌内科学)、桂 善也(茨城・代謝内分泌内科)、酒井 裕幸(糖尿病・代謝・内分泌内科学)、伊藤 祿郎(糖尿病・代謝・内分泌内科学)、原 一雄(糖尿病・代謝・内分泌内科学)、三苫 博(医学教育学)
実務経験のある教員等による授業科目（計上状況）	該当する（詳細は概要のシラバスを参照）

1. 授業の目的・概要

授業の目的・概要	
----------	--

2. 授業の到達目標およびディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応

授業の到達目標	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応

3. 授業の進め方と方法

内容	
----	--

4. ICT活用

内容	
----	--

5. 授業時間外の学習

予習	
予習時間	
予習内容	

復習	
復習時間	
復習内容	

6. 成績評価方法・基準

評価の方法と内訳（％）	
最終評価点	

合格点	
筆記試験の形式	
再試験・対象者	
再試験・実施時期	
再試験・範囲	
再試験・難易度	
再試験・方法	
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法	

7. 履修上の注意等

内容	
----	--

8. オフィスアワー

担当者、日時、場所、IP電話、E-mailなど	

9. 指定する教科書、参考書

教科書

書籍名、著者名、出版社名、費用など	

参考書

書籍名、著者名、出版社名、費用など	

10. 授業内容

回数	月日	曜日	時限	方式	授業内容	到達目標	キーワード	担当者
1	2022/9/16	金	1	講義	間脳・下垂体疾患		1.先端巨大症 2.下垂体前葉機能低下症 3.尿崩症 4.ADH不適合分泌症候群	三輪 隆（糖尿病・代謝・内分泌内科学）
2	2022/9/16	金	2	講義	副腎皮質疾患		1.Cushing症候群 2.原発性アルドステロン症 3.続発性アルドステロン症 4.副腎不全	三輪 隆（糖尿病・代謝・内分泌内科学）
3	2022/9/16	金	3	講義	糖〔質〕代謝異常①		1.糖尿病の診断と検査 2.糖尿病の治療 3.低血糖症	原 一雄（糖尿病・代謝・内分泌内科学）
4	2022/9/16	金	4	講義	糖〔質〕代謝異常②		1.糖尿病の慢性合併症 2.糖尿病ケトアシドーシス 3.高血糖高浸透圧症候群	伊藤 裕郎（糖尿病・代謝・内分泌内科学）
5	2022/9/20	火	1	講義	甲状腺疾患		1.甲状腺中毒症 2.慢性甲状腺炎 3.甲状腺の腫瘍	酒井 裕幸（糖尿病・代謝・内分泌内科学）
6	2022/9/20	火	2	講義	副甲状腺・副腎髄質疾患		1.副甲状腺機能亢進症 2.副甲状腺機能	桂 善也（茨城・代謝内分泌内科）

							低下症 3.褐色細胞腫 4.多発性内分泌腫瘍症	
7	2022/9/20	火	3	講義	脂質代謝およびその他の代謝異常		1.高脂血症 2.肥満症 3.高尿酸血症 4.ビタミン欠乏症	桂 善也（茨城・代謝内分泌内科）
8	2022/9/21	水	1	講義	Summary ・内分泌・代謝			三苫 博（医学教育学）
9	2022/9/21	水	2	講義	Summary ・内分泌・代謝			三苫 博（医学教育学）
10								
11								
12								
13								
14								
15								

科目名	臨床医学V（アレルギー・膠原病）Section3
年度	2022年度
学年	6年
開講学期	前期・後期
科目ナンバリング	
必修/選択	必修
授業形態	講義
単位数	0.0単位
時間数	
科目責任者	沢田 哲治
科目担当者	沢田 哲治(リウマチ・膠原病内科学)、太原 恒一郎(リウマチ・膠原病内科学)
実務経験のある教員等による授業科目（計上状況）	該当する（詳細は概要のシラバスを参照）

1. 授業の目的・概要

授業の目的・概要	
----------	--

2. 授業の到達目標およびディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応

授業の到達目標	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応

3. 授業の進め方と方法

内容	
----	--

4. ICT活用

内容	
----	--

5. 授業時間外の学習

予習	
予習時間	
予習内容	

復習	
復習時間	
復習内容	

6. 成績評価方法・基準

評価の方法と内訳（％）	
最終評価点	
合格点	

筆記試験の形式	
再試験・対象者	
再試験・実施時期	
再試験・範囲	
再試験・難易度	
再試験・方法	
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法	

7. 履修上の注意等

内容	
----	--

8. オフィスアワー

担当者、日時、場所、IP電話、E-mailなど	
-------------------------	--

9. 指定する教科書、参考書

教科書

書籍名、著者名、出版社名、費用など	
-------------------	--

参考書

書籍名、著者名、出版社名、費用など	
-------------------	--

10. 授業内容

回数	月日	曜日	時限	方式	授業内容	到達目標	キーワード	担当者
1	2022/9/22	木	1	講義	全身疾患としての膠原病（1）	関節リウマチ、脊椎関節炎、抗核抗体関連膠原病の病態、臨床所見、治療について説明できる。	1.関節リウマチ 2.多発性筋炎・皮膚筋炎 3.強皮症 4.混合性結合組織病 5.HLA-B27関連リウマチ性疾患	太原 恒一郎 （リウマチ・膠原病内科学）
2	2022/9/22	木	2	講義	全身疾患としての膠原病（2）	全身性エリテマトーデス、抗リン脂質抗体症候群、Sjogren症候群、成人Still病について、病態、臨床所見、治療を説明できる。	1.全身性エリテマトーデス 2.抗リン脂質抗体症候群 3.Sjogren症候群 4.成人Still病	太原 恒一郎 （リウマチ・膠原病内科学）
3	2022/9/22	木	3	講義	アレルギー性内科疾患	アナフィラキシーの病態、臨床所見、治療について説明できる。 成人の食物アレルギー、アレルギー性肺疾患について概説できる。	1.アナフィラキシー 2.アレルギー性気管支肺アスペルギルス症 3.過敏性肺炎 4.口腔アレルギー症候群	沢田 哲治 （リウマチ・膠原病内科学）
4	2022/9/22	木	4	講義	全身疾患としての膠原病（3）	血管炎症候群を中心とする膠原病類縁疾患について、病態、臨床所見、治療について説明できる。 線維筋痛羞悪について概要を説明できる。	1.血管炎症候群 2.Behcet病 3.リウマチ性多発筋痛症 4.線維筋痛症	沢田 哲治 （リウマチ・膠原病内科学）
5								
6								

科目名	臨床医学Ⅴ（産婦人科）Section4
年度	2022年度
学年	6年
開講学期	前期・後期
科目ナンバリング	
必修/選択	必修
授業形態	講義
単位数	0.0単位
時間数	
科目責任者	西洋孝
科目担当者	西洋孝(産科婦人科学)、久慈直昭(産科婦人科学)、小野政徳(産科婦人科学)、佐々木徹(産科婦人科学)、野平知良(医学教育学)、三苫博(医学教育学)
実務経験のある教員等による授業科目(計上状況)	該当する(詳細は概要のシラバスを参照)

1. 授業の目的・概要

授業の目的・概要	
----------	--

2. 授業の到達目標およびディプロマ・ポリシー(教育到達目標)との対応

授業の到達目標	ディプロマ・ポリシー(教育到達目標)との対応

3. 授業の進め方と方法

内容	
----	--

4. ICT活用

内容	
----	--

5. 授業時間外の学習

予習	
予習時間	
予習内容	

復習	
復習時間	
復習内容	

6. 成績評価方法・基準

評価の方法と内訳(%)	
最終評価点	

合格点	
筆記試験の形式	
再試験・対象者	
再試験・実施時期	
再試験・範囲	
再試験・難易度	
再試験・方法	
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法	

7. 履修上の注意等

内容	
----	--

8. オフィスアワー

担当者、日時、場所、IP電話、E-mailなど	

9. 指定する教科書、参考書

教科書

書籍名、著者名、出版社名、費用など	

参考書

書籍名、著者名、出版社名、費用など	

10. 授業内容

回数	月日	曜日	時限	方式	授業内容	到達目標	キーワード	担当者
1	2022/10/12	水	1	講義	正常妊娠		1.妊娠の成立・維持 2.胎児付属物 3.胎児・胎盤循環 4.子宮・母体の変化	西 洋孝（産科婦人科学）
2	2022/10/12	水	2	講義	異常妊娠		1.流産・早産 2.ハイリスク妊娠 3.合併症妊娠 4.母子感染	野平 知良（医学教育学）
3	2022/10/12	水	3	講義	正常分娩		1.分娩の3要素 2.分娩の経過 3.分娩の機転	野平 知良（医学教育学）
4	2022/10/13	木	1	講義	異常分娩		1.陣痛の異常 2.産道の異常 3.胎位・回旋の異常 4.胎盤の異常 5.出血と産科ショック	野平 知良（医学教育学）
5	2022/10/13	木	2	講義	産科の診察と検査		1.Bishopスコア 2.胎児心拍数陣痛図 3.超音波検査 4.ノンストレステスト 5.羊水検査	野平 知良（医学教育学）

6	2022/10/13	木	3	講義	産褥・胎児		1.産褥の経過 2.産褥の異常 3.胎児の発育 4.胎児の異常	野平 知良 (医学教育学)
7	2022/10/14	金	1	講義	子宮筋腫、子宮腺筋症、 子宮内膜症と感染症		1.子宮筋腫 2.子宮腺筋症 3.子宮内膜症 4.女性生殖器の 炎症 5.性感染症	西 洋孝 (産 科婦人科学)
8	2022/10/14	金	2	講義	腫 瘍		1.子宮癌 2.卵巣腫瘍 3.絨毛性疾患	佐々木 徹 (産科婦人科 学)
9	2022/10/17	月	1	講義	月経異常		1.無月経 2.月経周期と量 の異常 3.月経困難症 4.その他の月経 異常	小野 政徳 (産科婦人科 学)
10	2022/10/17	月	2	講義	不妊症、不育症、更年期・閉経後障害		1.不妊、不育 2.更年期障害 3.閉経後障害	久慈 直昭 (産科婦人科 学)
11	2022/10/18	火	1	講義	Summary ・産婦人科			三苫 博 (医 学教育学)
12	2022/10/18	火	2	講義	Summary ・産婦人科			三苫 博 (医 学教育学)
13								
14								
15								

科目名	臨床医学Ⅴ（小児科）Section4
年度	2022年度
学年	6年
開講学期	前期・後期
科目ナンバリング	
必修/選択	必修
授業形態	講義
単位数	0.0単位
時間数	
科目責任者	山中 岳
科目担当者	山崎 崇志(小児科・思春期科学)、林 豊(消化器・小児外科学)、菅波 佑介(小児科・思春期科学)、石田 悠(小児科・思春期科学)、森地 振一郎(小児科・思春期科学)、高橋 英城(小児科・思春期科学)、三苫 博(医学教育学)
実務経験のある教員等による授業科目（計上状況）	該当する（詳細は概要のシラバスを参照）

1. 授業の目的・概要

授業の目的・概要	
----------	--

2. 授業の到達目標およびディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応

授業の到達目標	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応

3. 授業の進め方と方法

内容	
----	--

4. ICT活用

内容	
----	--

5. 授業時間外の学習

予習	
予習時間	
予習内容	

復習	
復習時間	
復習内容	

6. 成績評価方法・基準

評価の方法と内訳（％）	
最終評価点	

合格点	
筆記試験の形式	
再試験・対象者	
再試験・実施時期	
再試験・範囲	
再試験・難易度	
再試験・方法	
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法	

7. 履修上の注意等

内容	
----	--

8. オフィスアワー

担当者、日時、場所、IP電話、E-mailなど	

9. 指定する教科書、参考書

教科書

書籍名、著者名、出版社名、費用など	

参考書

書籍名、著者名、出版社名、費用など	

10. 授業内容

回数	月日	曜日	時限	方式	授業内容	到達目標	キーワード	担当者
1	2022/10/19	水	1	講義	小児の消化器疾患		1.先天性食道閉鎖症 2.Hirschsprung病 3.腸重積症 4.鎖肛 5.ヘルニア	林 豊（消化器・小児外科学）
2	2022/10/19	水	2	講義	小児の内分泌・代謝疾患		1.低身長 2.クレチン症 3.性早熟症 4.糖(質)代謝異常 5.先天性代謝異常	高橋 英城（小児科・思春期科学）
3	2022/10/19	水	3	講義	成長と発達		1.小児の成長 2.行動の発達 3.反射の発達 4.臓器の発達 5.小児栄養	石田 悠（小児科・思春期科学）
4	2022/10/20	木	1	講義	小児の神経疾患		1.熱性けいれん 2.てんかん 3.神経線維腫症 4.結節性硬化症 5.脳性麻痺	森地 振一郎（小児科・思春期科学）
5	2022/10/20	木	2	講義	新生児		1.新生児の生理 2.新生児仮死 3.低出生体重児 4.呼吸窮迫症候群 5.新生児黄疸	菅波 佑介（小児科・思春期科学）

6	2022/10/20	木	3	講義	小児の膠原病・免疫不全・感染症		1.川崎病 2.リウマチ熱 3.若年性特発性関節炎 4.免疫不全症 5.流行性耳下腺炎 6.麻疹・風疹 7.百日咳 8.ウイルス性髄膜炎 9.呼吸器感染症	山崎 崇志 (小児科・思春期科学)
7	2022/10/21	金	1	講義	Summary ・小児科			三苫 博 (医学教育学)
8	2022/10/21	金	2	講義	Summary ・小児科			三苫 博 (医学教育学)
9								
10								
11								
12								
13								
14								
15								

科目名	臨床医学Ⅴ（眼科）Section5
年度	2022年度
学年	6年
開講学期	前期・後期
科目ナンバリング	
必修/選択	必修
授業形態	講義
単位数	0.0単位
時間数	
科目責任者	若林 美宏
科目担当者	若林 美宏(眼科学)、馬詰 和比古(眼科学)、川上 摂子(眼科学)、三苫 博(医学教育学)
実務経験のある教員等による授業科目（計上状況）	該当する（詳細は概要のシラバスを参照）

1. 授業の目的・概要

授業の目的・概要	
----------	--

2. 授業の到達目標およびディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応

授業の到達目標	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応

3. 授業の進め方と方法

内容	
----	--

4. ICT活用

内容	
----	--

5. 授業時間外の学習

予習	
予習時間	
予習内容	

復習	
復習時間	
復習内容	

6. 成績評価方法・基準

評価の方法と内訳（％）	
最終評価点	
合格点	

筆記試験の形式	
再試験・対象者	
再試験・実施時期	
再試験・範囲	
再試験・難易度	
再試験・方法	
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法	

7. 履修上の注意等

内容	
----	--

8. オフィスアワー

担当者、日時、場所、IP電話、E-mailなど	
-------------------------	--

9. 指定する教科書、参考書

教科書

書籍名、著者名、出版社名、費用など	
-------------------	--

参考書

書籍名、著者名、出版社名、費用など	
-------------------	--

10. 授業内容

回数	月日	曜日	時限	方式	授業内容	到達目標	キーワード	担当者
1	2022/10/26	水	1	講義	検査 視機能異常・視神経疾患		1.視器一般検査 2.視機能検査 3.視機能異常 4.視神経疾患 5.眼位・眼球運動障害	川上 摂子 (眼科学)
2	2022/10/26	水	2	講義	ぶどう膜・網膜・硝子体疾患		1.ぶどう膜炎 2.網膜の異常 3.硝子体の異常 4.眼内腫瘍	若林 美宏 (眼科学)
3	2022/10/26	水	3	講義	眼窩・外眼部・前眼部の疾患		1.眼窩の異常 2.眼瞼結膜の異常 3.眼表面・涙器の異常 4.白内障、緑内障 5.眼の外傷	馬詰 和比古 (眼科学)
4	2022/10/28	金	1・2	講義	Summary ・眼科 ・耳鼻咽喉科			三苫 博 (医学教育学)
5								
6								
7								
8								
9								
10								

科目名	臨床医学Ⅴ（耳鼻咽喉科）Section5
年度	2022年度
学年	6年
開講学期	前期・後期
科目ナンバリング	
必修/選択	必修
授業形態	講義
単位数	0.0単位
時間数	
科目責任者	塚原 清彰
科目担当者	塚原 清彰(耳鼻咽喉科・頭頸部外科学)、小川 恭生(耳鼻咽喉科・頭頸部外科学)、矢富 正徳(耳鼻咽喉科・頭頸部外科学)、濱田 勇人(口腔外科学)、三苫 博(医学教育学)
実務経験のある教員等による授業科目（計上状況）	該当する（詳細は概要のシラバスを参照）

1. 授業の目的・概要

授業の目的・概要	
----------	--

2. 授業の到達目標およびディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応

授業の到達目標	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応

3. 授業の進め方と方法

内容	
----	--

4. ICT活用

内容	
----	--

5. 授業時間外の学習

予習	
予習時間	
予習内容	

復習	
復習時間	
復習内容	

6. 成績評価方法・基準

評価の方法と内訳（％）	
最終評価点	

合格点	
筆記試験の形式	
再試験・対象者	
再試験・実施時期	
再試験・範囲	
再試験・難易度	
再試験・方法	
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法	

7. 履修上の注意等

内容	
----	--

8. オフィスアワー

担当者、日時、場所、IP電話、E-mailなど	

9. 指定する教科書、参考書

教科書

書籍名、著者名、出版社名、費用など	

参考書

書籍名、著者名、出版社名、費用など	

10. 授業内容

回数	月日	曜日	時限	方式	授業内容	到達目標	キーワード	担当者
1	2022/10/27	木	1	講義	喉頭・咽頭・唾液腺疾患		1.喉頭の異常 2.咽頭の異常 3.唾液腺の異常 4.顎部の異常	塚原 清彰 (耳鼻咽喉科・頭頸部外科学)
2	2022/10/27	木	2	講義	外耳・中耳・内耳疾患		1.外耳道の異常 2.鼓膜の異常 3.中耳の異常 4.内耳の異常 5.前庭の異常	小川 恭生 (耳鼻咽喉科・頭頸部外科学)
3	2022/10/27	木	3	講義	鼻腔・副鼻腔・口腔疾患		1.鼻腔の異常 2.副鼻腔の異常 3.鼻アレルギー 4.口腔の異常 5.顎骨の異常	濱田 勇人 (口腔外科学) 矢富 正徳 (耳鼻咽喉科・頭頸部外科学)
4	2022/10/28	金	1・2	講義	Summary ・眼科 ・耳鼻咽喉科			三苫 博 (医学教育学)
5								
6								
7								
8								
9								
10								

科目名	臨床医学Ⅴ（整形外科）Section5
年度	2022年度
学年	6年
開講学期	前期・後期
科目ナンバリング	
必修/選択	必修
授業形態	講義
単位数	0.0単位
時間数	
科目責任者	穴戸 孝明
科目担当者	穴戸 孝明(整形外科学)、西田 淳(整形外科学)、遠藤 健司(整形外科学)、三苫 博(医学教育学)
実務経験のある教員等による授業科目（計上状況）	該当する（詳細は概要のシラバスを参照）

1. 授業の目的・概要

授業の目的・概要	
----------	--

2. 授業の到達目標およびディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応

授業の到達目標	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応

3. 授業の進め方と方法

内容	
----	--

4. ICT活用

内容	
----	--

5. 授業時間外の学習

予習	
予習時間	
予習内容	

復習	
復習時間	
復習内容	

6. 成績評価方法・基準

評価の方法と内訳（％）	
最終評価点	
合格点	

筆記試験の形式	
再試験・対象者	
再試験・実施時期	
再試験・範囲	
再試験・難易度	
再試験・方法	
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法	

7. 履修上の注意等

内容	
----	--

8. オフィスアワー

担当者、日時、場所、IP電話、E-mailなど	
-------------------------	--

9. 指定する教科書、参考書

教科書

書籍名、著者名、出版社名、費用など	
-------------------	--

参考書

書籍名、著者名、出版社名、費用など	
-------------------	--

10. 授業内容

回数	月日	曜日	時限	方式	授業内容	到達目標	キーワード	担当者
1	2022/10/31	月	1	講義	脊椎・脊髄疾患 骨・関節系統疾患		1.脊椎・脊髄疾患 2.骨系統疾患 3.代謝性疾患 4.脊髄損傷 5.先天奇形	遠藤 健司 (整形外科学)
2	2022/10/31	月	2	講義	上肢・下肢の運動器疾患 非感染性骨・関節・四肢軟部疾患		1.肩・肘・膝・股関節の疾患 2.手・下腿・足の疾患 3.滑膜炎、関節炎、関節症、四肢軟部病変 4.骨折、外傷	穴戸 孝明 (整形外科学)
3	2022/10/31	月	3	講義	骨・軟部腫瘍と類似疾患 運動器の感染・炎症性疾患		1.原発性良性・悪性骨腫瘍 2.転移性骨腫瘍 3.骨腫瘍類似疾患 4.良性・悪性軟部腫瘍 5.骨・関節感染症	西田 淳 (整形外科学)
4	2022/11/2	水	1・2	講義	Summary ・整形外科 ・皮膚科			三苫 博 (医学教育学)
5								
6								
7								

科目名	臨床医学Ⅴ（皮膚科）Section5
年度	2022年度
学年	6年
開講学期	前期・後期
科目ナンバリング	
必修/選択	必修
授業形態	講義
単位数	0.0単位
時間数	
科目責任者	原田 和俊
科目担当者	原田 和俊(皮膚科学)、加藤 雪彦(皮膚科学)、伊藤 友章(皮膚科学)、三苫 博(医学教育学)
実務経験のある教員等による授業科目（計上状況）	該当する（詳細は概要のシラバスを参照）

1. 授業の目的・概要

授業の目的・概要	
----------	--

2. 授業の到達目標およびディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応

授業の到達目標	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応

3. 授業の進め方と方法

内容	
----	--

4. ICT活用

内容	
----	--

5. 授業時間外の学習

予習	
予習時間	
予習内容	

復習	
復習時間	
復習内容	

6. 成績評価方法・基準

評価の方法と内訳（%）	
最終評価点	
合格点	

筆記試験の形式	
再試験・対象者	
再試験・実施時期	
再試験・範囲	
再試験・難易度	
再試験・方法	
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法	

7. 履修上の注意等

内容	
----	--

8. オフィスアワー

担当者、日時、場所、IP電話、E-mailなど	
-------------------------	--

9. 指定する教科書、参考書

教科書

書籍名、著者名、出版社名、費用など	
-------------------	--

参考書

書籍名、著者名、出版社名、費用など	
-------------------	--

10. 授業内容

回数	月日	曜日	時限	方式	授業内容	到達目標	キーワード	担当者
1	2022/11/1	火	1	講義	皮膚の構造と機能、角化症、水疱症、膿疱症、血管障害、光線過敏症、附属器疾患		1.皮膚の構造 2.乾癬、扁平苔癬 3.天疱瘡、類天疱瘡 4.血管炎 5.光線過敏症 6.脱毛症	原田 和俊 (皮膚科学)
2	2022/11/1	火	2	講義	炎症性皮膚疾患、皮膚感染症		1.湿疹・皮膚炎 2.じんま疹 3.紅斑症 4.薬疹 5.皮膚感染症	伊藤 友章 (皮膚科学)
3	2022/11/1	火	3	講義	皮膚腫瘍・母斑 全身と皮膚		1.母斑・母斑症 2.皮膚良性腫瘍 3.皮膚悪性腫瘍 4.全身と皮膚	加藤 雪彦 (皮膚科学)
4	2022/11/2	水	1・2	講義	Summary ・整形外科 ・皮膚科			三苫 博 (医学教育学)
5								
6								
7								
8								
9								
10								
11								

科目名	臨床医学V（泌尿器科）Section5
年度	2022年度
学年	6年
開講学期	前期・後期
科目ナンバリング	
必修/選択	必修
授業形態	講義
単位数	0.0単位
時間数	
科目責任者	大野 芳正
科目担当者	佐竹 直哉(泌尿器科学)、橋本 剛(泌尿器科学)、三苫 博(医学教育学)
実務経験のある教員等による授業科目（計上状況）	該当する（詳細は概要のシラバスを参照）

1. 授業の目的・概要

授業の目的・概要	
----------	--

2. 授業の到達目標およびディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応

授業の到達目標	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応

3. 授業の進め方と方法

内容	
----	--

4. ICT活用

内容	
----	--

5. 授業時間外の学習

予習	
予習時間	
予習内容	

復習	
復習時間	
復習内容	

6. 成績評価方法・基準

評価の方法と内訳（％）	
最終評価点	
合格点	

筆記試験の形式	
再試験・対象者	
再試験・実施時期	
再試験・範囲	
再試験・難易度	
再試験・方法	
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法	

7. 履修上の注意等

内容	
----	--

8. オフィスアワー

担当者、日時、場所、IP電話、E-mailなど	
-------------------------	--

9. 指定する教科書、参考書

教科書

書籍名、著者名、出版社名、費用など	
-------------------	--

参考書

書籍名、著者名、出版社名、費用など	
-------------------	--

10. 授業内容

回数	月日	曜日	時限	方式	授業内容	到達目標	キーワード	担当者
1	2022/11/4	金	1	講義	尿路結石と尿路・生殖器の炎症		1.尿閉・無尿 2.結石症 3.尿路閉塞性疾患 4.腎・尿路の炎症 5.男性生殖器の炎症	佐竹 直哉 (泌尿器科学)
2	2022/11/4	金	2	講義	腎・尿路・男性生殖器の腫瘍		1.腎細胞癌 2.膀胱癌 3.前立腺肥大症 4.前立腺癌 5.精巣腫瘍	橋本 剛 (泌尿器科学)
3	2022/11/8	火	1・2	講義	Summary ・泌尿器科 ・精神科			三苫 博 (医学教育学)
4								
5								
6								
7								
8								
9								
10								
11								
12								
13								

科目名	臨床医学Ⅴ（形成外科）Section5
年度	2022年度
学年	6年
開講学期	前期・後期
科目ナンバリング	
必修/選択	必修
授業形態	講義
単位数	0.0単位
時間数	
科目責任者	松村 一
科目担当者	松村 一(形成外科学)
実務経験のある教員等による授業科目（計上状況）	該当する（詳細は概要のシラバスを参照）

1. 授業の目的・概要

授業の目的・概要	
----------	--

2. 授業の到達目標およびディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応

授業の到達目標	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応

3. 授業の進め方と方法

内容	
----	--

4. ICT活用

内容	
----	--

5. 授業時間外の学習

予習	
予習時間	
予習内容	

復習	
復習時間	
復習内容	

6. 成績評価方法・基準

評価の方法と内訳（％）	
最終評価点	
合格点	

筆記試験の形式	
再試験・対象者	
再試験・実施時期	
再試験・範囲	
再試験・難易度	
再試験・方法	
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法	

7. 履修上の注意等

内容	
----	--

8. オフィスアワー

担当者、日時、場所、IP電話、E-mailなど	

9. 指定する教科書、参考書

教科書

書籍名、著者名、出版社名、費用など	

参考書

書籍名、著者名、出版社名、費用など	

10. 授業内容

回数	月日	曜日	時限	方式	授業内容	到達目標	キーワード	担当者
1	2022/11/2	水	3	講義	熱傷、褥瘡		1.熱 傷 2.熱傷ショック 3.褥瘡	松村 一（形成外科学）
2	2022/11/2	水	4	講義	外傷の治療 （軟部組織損傷、顔面外傷）		1.デブリードマン 2.皮膚欠損 3.顔面神経 4.耳介血腫 5.顔面骨折	松村 一（形成外科学）
3								
4								
5								
6								
7								
8								
9								
10								
11								
12								
13								
14								
15								

科目名	臨床医学Ⅴ（精神科）Section5
年度	2022年度
学年	6年
開講学期	前期・後期
科目ナンバリング	
必修/選択	必修
授業形態	講義
単位数	0.0単位
時間数	
科目責任者	井上 猛
科目担当者	井上 猛(精神医学)、榊屋 二郎(精神医学)、本屋敷 美奈(精神医学)、三苫 博(医学教育学)
実務経験のある教員等による授業科目（計上状況）	該当する（詳細は概要のシラバスを参照）

1. 授業の目的・概要

授業の目的・概要	
----------	--

2. 授業の到達目標およびディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応

授業の到達目標	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応

3. 授業の進め方と方法

内容	
----	--

4. ICT活用

内容	
----	--

5. 授業時間外の学習

予習	
予習時間	
予習内容	

復習	
復習時間	
復習内容	

6. 成績評価方法・基準

評価の方法と内訳 (%)	
最終評価点	
合格点	

筆記試験の形式	
再試験・対象者	
再試験・実施時期	
再試験・範囲	
再試験・難易度	
再試験・方法	
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法	

7. 履修上の注意等

内容	
----	--

8. オフィスアワー

担当者、日時、場所、IP電話、E-mailなど

9. 指定する教科書、参考書

教科書

書籍名、著者名、出版社名、費用など

参考書

書籍名、著者名、出版社名、費用など

10. 授業内容

回数	月日	曜日	時限	方式	授業内容	到達目標	キーワード	担当者
1	2022/11/7	月	1	講義	統合失調症、統合失調型障害および妄想性障害 気分（感情）障害 法律		1.うつ病 2.双極性障害 3.統合失調症 4.妄想性障害 5.非定型精神病 6.統合失調感情障害 7.精神保健福祉法	井上 猛（精神医学）
2	2022/11/7	月	2	講義	症状性を含む器質性精神障害 精神作用物質による精神および行動の障害		1.アルツハイマー病型認知症 2.血管性認知症 3.その他の認知症 4.せん妄 5.器質性精神病 6.症状性精神病 7.アルコール依存症 8.中毒精神病 9.睡眠障害	本屋敷 美奈（精神医学）
3	2022/11/7	月	3	講義	神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害 生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群 児童思春期の精神疾患		1.恐怖症性不安障害、社会恐怖 2.パニック障害、全般性不安障害 3.強迫性障害 4.重度ストレス反応および適応障害 5.解離性（転換性）障害	榎屋 二郎（精神医学）

							6.身体表現性障害 7.摂食障害 8.児童思春期の精神疾患	
4	2022/11/8	火	1・2	講義	Summary ・泌尿器科 ・精神科			三吉 博 (医学教育学)
5								
6								
7								
8								
9								
10								
11								
12								
13								
14								
15								

科目名	臨床医学V（救急・中毒）Section6
年度	2022年度
学年	6年
開講学期	前期・後期
科目ナンバリング	
必修/選択	必修
授業形態	講義
単位数	0.0単位
時間数	
科目責任者	三島 史朗
科目担当者	三島 史朗(医療の質・安全管理学)
実務経験のある教員等による授業科目（計上状況）	該当する（詳細は概要のシラバスを参照）

1. 授業の目的・概要

授業の目的・概要	
----------	--

2. 授業の到達目標およびディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応

授業の到達目標	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応

3. 授業の進め方と方法

内容	
----	--

4. ICT活用

内容	
----	--

5. 授業時間外の学習

予習	
予習時間	
予習内容	

復習	
復習時間	
復習内容	

6. 成績評価方法・基準

評価の方法と内訳（％）	
最終評価点	
合格点	

筆記試験の形式	
再試験・対象者	
再試験・実施時期	
再試験・範囲	
再試験・難易度	
再試験・方法	
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法	

7. 履修上の注意等

内容	
----	--

8. オフィスアワー

担当者、日時、場所、IP電話、E-mailなど	
-------------------------	--

9. 指定する教科書、参考書

教科書

書籍名、著者名、出版社名、費用など	
-------------------	--

参考書

書籍名、著者名、出版社名、費用など	
-------------------	--

10. 授業内容

回数	月日	曜日	時限	方式	授業内容	到達目標	キーワード	担当者
1	2022/11/18	金	1	講義	CPAとCPR		1.2020年ガイドライン 2.不整脈への対応	三島 史朗 (医療の質・安全管理学)
2	2022/11/18	金	2	講義	急性中毒		1.特異的診断法 2.応急措置 3.解毒・拮抗薬	三島 史朗 (医療の質・安全管理学)
3	2022/11/18	金	3	講義	特殊感染症		1.破傷風 2.ガス壊疽	三島 史朗 (医療の質・安全管理学)
4								
5								
6								
7								
8								
9								
10								
11								
12								
13								
14								
15								

科目名	臨床医学Ⅴ（麻酔）Section6
年度	2022年度
学年	6年
開講学期	前期・後期
科目ナンバリング	
必修/選択	必修
授業形態	講義
単位数	0.0単位
時間数	
科目責任者	中澤 弘一
科目担当者	柿沼 孝泰(麻酔科学)
実務経験のある教員等による授業科目（計上状況）	該当する（詳細は概要のシラバスを参照）

1. 授業の目的・概要

授業の目的・概要	
----------	--

2. 授業の到達目標およびディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応

授業の到達目標	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応

3. 授業の進め方と方法

内容	
----	--

4. ICT活用

内容	
----	--

5. 授業時間外の学習

予習	
予習時間	
予習内容	

復習	
復習時間	
復習内容	

6. 成績評価方法・基準

評価の方法と内訳（％）	
最終評価点	
合格点	

筆記試験の形式	
再試験・対象者	
再試験・実施時期	
再試験・範囲	
再試験・難易度	
再試験・方法	
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法	

7. 履修上の注意等

内容	
----	--

8. オフィスアワー

担当者、日時、場所、IP電話、E-mailなど

9. 指定する教科書、参考書

教科書

書籍名、著者名、出版社名、費用など

参考書

書籍名、著者名、出版社名、費用など

10. 授業内容

回数	月日	曜日	時限	方式	授業内容	到達目標	キーワード	担当者
1	2022/11/21	月	1	講義	麻 酔		1.吸入麻酔薬・ 静脈麻酔薬 2.術中合併症 3.硬膜外麻酔・ 脊髄クモ膜下麻酔 4.局所麻酔薬・ 神経ブロック 5.局麻中毒	柿沼 孝泰 (麻酔科学)
2								
3								
4								
5								
6								
7								
8								
9								
10								
11								
12								
13								
14								
15								

科目名	臨床医学Ⅴ（放射線）Section6
年度	2022年度
学年	6年
開講学期	前期・後期
科目ナンバリング	
必修/選択	必修
授業形態	講義
単位数	0.0単位
時間数	
科目責任者	齋藤 和博
科目担当者	三上 隆二(放射線医学)
実務経験のある教員等による授業科目（計上状況）	該当する（詳細は概要のシラバスを参照）

1. 授業の目的・概要

授業の目的・概要	
----------	--

2. 授業の到達目標およびディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応

授業の到達目標	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応

3. 授業の進め方と方法

内容	
----	--

4. ICT活用

内容	
----	--

5. 授業時間外の学習

予習	
予習時間	
予習内容	

復習	
復習時間	
復習内容	

6. 成績評価方法・基準

評価の方法と内訳（％）	
最終評価点	
合格点	

筆記試験の形式	
再試験・対象者	
再試験・実施時期	
再試験・範囲	
再試験・難易度	
再試験・方法	
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法	

7. 履修上の注意等

内容	
----	--

8. オフィスアワー

担当者、日時、場所、IP電話、E-mailなど	

9. 指定する教科書、参考書

教科書

書籍名、著者名、出版社名、費用など	

参考書

書籍名、著者名、出版社名、費用など	

10. 授業内容

回数	月日	曜日	時限	方式	授業内容	到達目標	キーワード	担当者
1	2022/11/21	月	2	講義	国試からみた放射線医学		1.放射線の単位 2.放射線障害 3.放射線防護 4.造影剤の副作用	三上 隆二 (放射線医学)
2								
3								
4								
5								
6								
7								
8								
9								
10								
11								
12								
13								
14								
15								

科目名	臨床医学Ⅴ（社会医学系）Section6
年度	2022年度
学年	6年
開講学期	前期・後期
科目ナンバリング	
必修/選択	必修
授業形態	講義
単位数	0.0単位
時間数	
科目責任者	井上 茂
科目担当者	井上 茂(公衆衛生学)、濱岡 隆文(健康増進スポーツ医学)、三島 史朗(医療の質・安全管理学)、高宮 朋子(公衆衛生学)、浦松 雅史(医療の質・安全管理学)、小田切 優子(公衆衛生学)、福島 教照(公衆衛生学)、菊池 宏幸(公衆衛生学)、木目 良太郎(健康増進スポーツ医学)、黒澤 裕子(健康増進スポーツ医学)、町田 征己(公衆衛生学)
実務経験のある教員等による授業科目（計上状況）	該当する（詳細は概要のシラバスを参照）

1. 授業の目的・概要

授業の目的・概要	
----------	--

2. 授業の到達目標およびディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応

授業の到達目標	ディプロマ・ポリシー（教育到達目標）との対応

3. 授業の進め方と方法

内容	
----	--

4. ICT活用

内容	
----	--

5. 授業時間外の学習

予習	
予習時間	
予習内容	

復習	
復習時間	
復習内容	

6. 成績評価方法・基準

評価の方法と内訳（％）	
-------------	--

最終評価点	
合格点	
筆記試験の形式	
再試験・対象者	
再試験・実施時期	
再試験・範囲	
再試験・難易度	
再試験・方法	
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法	

7. 履修上の注意等

内容	
----	--

8. オフィスアワー

担当者、日時、場所、IP電話、E-mailなど	
-------------------------	--

9. 指定する教科書、参考書

教科書

書籍名、著者名、出版社名、費用など	
-------------------	--

参考書

書籍名、著者名、出版社名、費用など	
-------------------	--

10. 授業内容

回数	月日	曜日	時限	方式	授業内容	到達目標	キーワード	担当者
1	2022/11/14	月	1	講義	高齢者医療・介護・福祉		1.高齢社会の現状 2.地域包括ケアシステム 3.介護保険制度 4.在宅ケア	高宮 朋子 (公衆衛生学)
2	2022/11/14	月	2	講義	地域保健活動と保健医療行政		1.プライマリヘルスケア 2.医療法 3.医療計画 4.医療資源 5.保健医療行政 6.救急医療と僻地医療	菊池 宏幸(公衆衛生学)
3	2022/11/14	月	3	講義	国民の健康水準		1.国民医療費 2.国民生活基礎調査・患者調査 3.国勢調査 4.人口統計（出生・死亡）	町田 征己(公衆衛生学)
4	2022/11/15	火	1	講義	母子保健・学校保健		1.母子保健法 2.健やか親子21（第2次） 3.児童虐待防止法 4.学校保健安全法	高宮 朋子(公衆衛生学)

							5.学校精神保健 ほか	
5	2022/11/15	火	2	講義	疫学		1.疫学研究法 2.研究デザイン 3.尤度比、事前・事後確率 4.臨床疫学 E B M 5.統計	福島 教照(公衆衛生学)
6	2022/11/15	火	3	講義	生活環境保健		1.生物濃縮 2.地球環境の変化 3.環境汚染と健康 4.騒音・振動の健康影響 5.放射線の健康影響	木目 良太郎 (健康増進スポーツ医学)
7	2022/11/16	水	1	講義	産業保健		1.労働衛生関連法規 2.労働衛生管理 3.産業医の職務 4.労働災害 5.職業性健康障害	小田切 優子 (公衆衛生学)
8	2022/11/16	水	2	講義	精神保健福祉		1.精神保健福祉法 2.精神障害者の医療 3.精神保健福祉センター 4.メンタルヘルス対策 5.自殺対策基本法	小田切 優子 (公衆衛生学)
9	2022/11/16	水	3	講義	感染症・国民栄養と食品保健		1.感染症新法 2.感染症の最近の動向 3.予防接種 4.国民栄養の現状と対策 5.食品の安全性と機能性	町田 征己(公衆衛生学) 黒澤 裕子(健康増進スポーツ医学)
10	2022/11/17	木	1	講義	健康増進・生活習慣病対策		1.健康・予防医学の概念 2.国民健康づくり運動 3.健康増進法 4.特定健康診査・特定保健指導 5.生活習慣病のリスクファクター	濱岡 隆文(健康増進スポーツ医学)
11	2022/11/17	木	2	講義	医の倫理と医師の義務		1.医の倫理 2.ヘルシンキ宣言 3.医師法 4.医療法	三島 史朗(医療の質・安全管理学)
12	2022/11/17	木	3	講義	患者安全		1.リスク管理 2.インフォームドコンセント 3.質改善 4.タイムアウト 5.フルブルーフ	浦松 雅史(医療の質・安全管理学)
13								
14								